

オーガナイズドセッション1(OS1)

～ 河川維持管理を見据えた 新たな技術について ～

時間 16:00～18:00

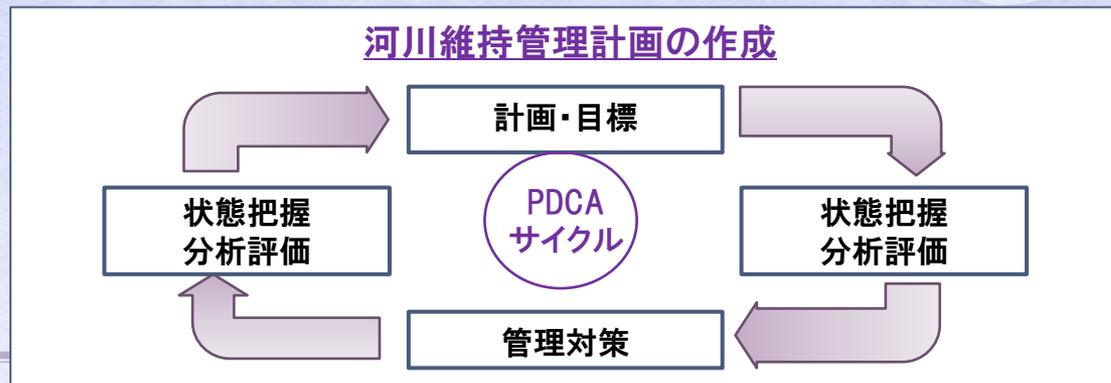
場所 弥生講堂 一条ホール

【主旨説明】

昨今の記録的豪雨の発生などから、次のような点の重要性が増している。

- 例 ・河道流下断面の確保
 ・河川施設の安全性確保…… 河川管理施設の多くが整備後40年を経過し、老朽化、更新時期がせまっている

- 安全を持続的に確保するための今後の河川管理のあり方 H25.4答申
- 河川砂防技術基準 維持管理編(河川編) H23.5策定



＜河川維持管理の特性＞

- ・長大な河道・堤防と膨大な管理施設が対象
- ・自然的インパクトによる変化

- ・現状の施策・管理例
- ・研究成果・新技術
- ・蓄積データの分析

- ・的確かつ効率的な維持管理方策
- ・維持管理面からの新たな技術や研究の方向性(課題)

【招待講演】

- ・河川維持管理に関わる施策の動向、現状課題、今後の方向性

国土交通省 水管理・国土保全局 時岡 真治

【投稿論文からの発表】

- ・河川の維持管理と機能低下の基本的な特性についての考察

(公財)河川財団 戦略的維持管理研究所 安原 達

- ・変状と被災の統計的解析による堤防の点検及び巡視の合理化
に関する一考察

国土技術政策総合研究所 河川研究室 下川 大介

【実務者からの発表】

- ・維持管理に関わる最近の研究例・実管理と実務者からみた課題

いであ株式会社 堀江 克也

【総合討議】

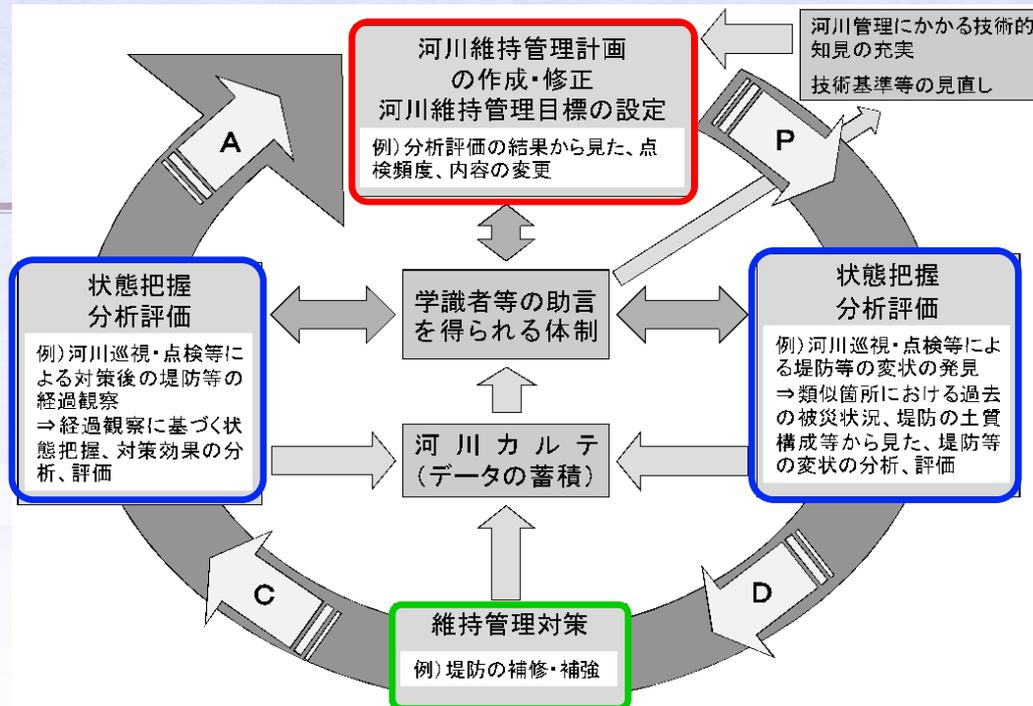
| | | |
|--------|-------|------------------------|
| (進行) | 田村 浩敏 | 株式会社建設技術研究所 |
| (パネラー) | 時岡 真治 | 国土交通省 水管理・国土保全局 |
| | 安原 達 | (公財)河川財団 戦略的維持管理研究所 |
| | 下川 大介 | 国土技術政策総合研究所 河川研究室 |
| | 堀江 克也 | いであ株式会社 |
| | 松田 寛志 | 日本工営株式会社 <水工学委員会河川部会長> |

【総合討議】

1. パネラー自己紹介と河川維持管理の現状について思うこと
2. 河川維持管理のPDCAサイクルについて
3. データの蓄積・分析に関する技術
4. 長大な河道範囲や膨大な数の施設を対象とする効率的な管理について

2. 河川維持管理のPDCAサイクルについて

- ・ PDCAサイクルは有効におこなわれているか
- ・ うまくやっている事例はあるか
- ・ 河川維持管理計画の内容や運用は有効か
- ・ PDCAのどの部分が不十分か、着実に実行するための課題は？
- ・ PDCAサイクルをまわすにはどのような技術が求められるのか？
- ・ 地域住民等との協働



3. データの蓄積・分析に関する技術

- ・効果的なモニタリングにするための研究や技術は
(ICT技術なども含めて)
- ・維持管理データベース整備の現状・方向性
- ・判断指標を作っていくための全国的なデータ集約・共有など
- ・新しい研究成果・分析指標や技術の一般的普及は
- ・現状のモニタリング事項に不足はないか
- ・管理対策や分析評価を見据えたモニタリング事項か
- ・状態や現象を把握する技術は

4. 長大な河道範囲や膨大な数の施設を対象とする効率的な管理について

- ・具体的に効率的な管理技術にはどのようなものがあるか
- ・モニタリングすべき範囲・箇所を抽出する技術は
- ・モニタリングの時期や期間(頻度)
- ・メンテナンスフリーの設計など
- ・目的別に着目すべきモニタリング事項は
- ・効率的に管理すべき事項や判断指標を設定する技術は